

取材店 手打ちそば いち代

今回の川尻うまかもんは、これからの季節にぴったりなお蕎麦屋さんのご紹介です。南部万年青年会館近くにひっそりと佇む隠れ家的な、手打ちそば いち代。

代表の宮田哲夫(みやた てつお)さんは沖縄の石垣島で民宿を13年営まれ、いずれは地元川尻に帰りたいという想いから一念発起して今年の3月にいち代をオープンされました。宮田さんが一代目ということで「いち代」と名付けられたそうです。古民家の温もりのある店内は、つい長居してしまう心地良さ。

丹精込め手打ちされた蕎麦はツルっとモチモチで喉ごし最高な二八蕎麦。おすすめは、ざるそば(挽ぐるみ)¥800税込とざるそば(田舎)¥800税込です。ざるそば(挽ぐるみ)は、ズーっとすすった後に蕎麦の爽やかな風味が鼻に抜けていきます。そば殻をいっしょに挽き込んだざるそば(田舎)は、蕎麦の甘みと濃厚な香りが楽しめます。鯉ベースの蕎麦つゆは、キリっとして蕎麦との絡みもバッチリ!自家製いなり(¥100税込)も出汁がしみ込んだ油揚げがとっても美味しいので、ぜひ蕎麦といっしょにどうぞ。



☎090-2961-0039
〒南区八幡6丁目1-48
営業 11:00~15:00 / 17:00~ご予約のみ
(当日の午前中までの受付。ご予約人数などご相談下さい)
休日曜、祝日、第2第4木曜日 3台

「河陽新聞を見た!」でHOTコーヒーをサービス※8月末まで

愛's eye 

加勢研の取り組みに👁️!!

今回の愛's eyeは中無田閘門を管理しながら川を身近に感じてもらうと活動している加勢川開発研究会に密着してきました。

会長である田中洋丞(ようすけ)さんは、川に関心を持つ人が増えて欲しいとの想いから子ども達向けの様々な活動を行っています。例えば、小中学校の環境学習やプレイパークイベントなどで、8月には夏休みの自由研究で訪れる親子も多いそうなので、自由研究に困ったら中無田閘門へGOですね!!川遊びの楽しさだけでなく、水害や事故などの危険性もわかってもらいたいと真剣に話す田中会長はカッコ良かったです。取材終了後に気になる小舟をチラ見する私に気遣っていただき、なんとつ舟に乗せていただきました!

ゆっくりとした速さで心地良い風を感じながらの舟乗り体験は、川尻の歴史や加勢川の話に耳を傾けながら見上げる陸の景色に心奪われっぱなしでした。

子ども向けだけでなく、大人向けのイベントも考えてほしい!そして浪漫を感じる加勢川を通して、「もっとたくさんの方が集う街にしていきたい!」と思えた貴重な体験でした!



編集後記

今回の河陽新聞は加勢川の魅力を多く伝えさせてもらいましたが、まだまだ興味深い話がありますので紹介いたします。

加勢川対岸の杉島地区にある「開眼の浜」という所は、洗顔・歯磨き・爪楊枝の習慣を日本に持ち込んだとされる道元禪師が中国の宋からの帰りに漂着した場所と言われています。また加藤清正は杉島に熊本城を築こうとしていたと南部地区歴史研究会の牛嶋会長に教えていただきました。

もしかしたら洗顔・歯磨き・爪楊枝を日本で初めて実施した地域かもしれない、そして川尻校区が城下町だったと考えるだけでもワクワクしてきますね。

発行責任者:川尻校区自治協議会 会長 米満 吉重
編集責任者:川尻校区自治協議会 広報部会 会長 益本 武士

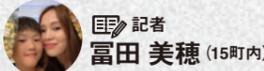


川尻の“いま”を伝えます

河陽新聞

Vol.37
2023.7.18
KAWASHIRI AREA
NEWSPAPER
KAYOU SHINBUN

「河陽」とは緑川の北岸の町という意味で、川尻の古い呼称です。歴史と文化を大事にしてきた川尻にちなんで、「河陽新聞」として川尻校区の情報を発信しています。

愛称は「川尻蔵前通り」に! 

今年の2月より自治協議会が、川尻4丁目の四つ角から川尻3丁目の外城にかけての通りの愛称を公募していました。そしてこの度、多くの応募の中から、「川尻蔵前通り(かわしりくらまえどおり)」に決定されました。

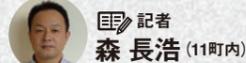
このような素敵な愛称を考えてくださったのは、天明堂の北川広美さんです。回覧板が回ってきた時、「貴重なお蔵前の通りなのに名前がないから良い企画」だと感じたそうです。そこで、まずは呼びやすいこと、蔵や船着き場に関係した名前にしたいとの思いから応募したとのことでした。

そしてなんと、天明堂さんでは「川尻蔵前通り」にちなんで、お菓子を商品化してくださるみたいです!またその時はご紹介できたらと思います!

熊本城マラソンのコースでもあるこの通りに正式な愛称がついて、「熊本藩川尻米蔵跡」が一般公開されたら、もっと親しみやすくなりそうですね!

今までは「お蔵ん前」や「船着き場」の通りなどバラバラでしたが、今後は「川尻蔵前通り」をみんなで浸透させ、周知していきます!



8月15日(火)開催 「川尻精霊流し・花火大会」 



コロナ禍で中止や縮小となっていた川尻精霊流し・花火大会が久しぶりに通常開催されます。山鹿灯籠祭り、うと地蔵祭りと共に熊本三大夏祭りに数えられる川尻精霊流しは、400年以上の歴史を持つ盂蘭盆会(うらぼんえ)の伝統行事です。踊りや山車などの賑やかさはありませんが、亡くなられた方々の魂を乗せた数百の精霊舟、角灯籠、数千の万灯籠が、読経と雅楽に包まれ灯りを揺らしながら夜の加勢川を下る光景は荘厳の一言に尽きます。

米満吉重実行委員長は抱負として「4年ぶりとなる本来の開催に向け、準備を進めています。しかし、単に以前の演出内容を踏襲するものではなく、5年、10年先も見据えて校区組織行事として若い人たちが継承できるものにしていきたい。この伝統行事が川尻地域発展の礎となるよう、各町内、各団体の方々からご協力いただきながら取り組みたい。」と語られました。その一環として、6月には川尻小体育館で万灯籠用のダンボールのカット作業が行われ、川尻小・城南中PTAの協力で小中学生約30名がボランティアとして作業に参加、地域行事と子供たちを結ぶ貴重な機会となりました。また、精霊流しの後の花火大会も、今年は花火2,000発が用意され新たな演出も加わる予定とのことです。

行事の意義や本質は継承しながら新たな取り組みも取り入れていく、こうしたことが伝統行事を末長く続けることにきっと繋がるだろうと感じました。川尻精霊流しは8月15日開催、お問合せは川尻精霊流し・花火大会実行委員会まで(096-358-6892)

読者プレゼント

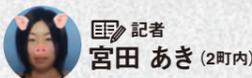
「河陽新聞」をお読みいただき、ありがとうございます。今回は「和洋酒場かぶき 川尻店 お食事券3,000円分」と「サブリーポップコーン プレミアムポップコーン」を抽選で各5名さまにプレゼントいたします。



ご応募は kayou.shinbun@gmail.com に氏名・住所・連絡先・希望プレゼント・今号の感想を記入してメールしてください。当選者の方にはご案内を返信いたします。(商品は手渡しになります。詳細はご当選者様にお送りします) こちらのQRコードから送れます



行くぞ! 青少協キャンプ!



記者 宮田 あき (2町内)

いよいよ暑い夏がやってきます。川尻小の4年生は青少協キャンプの季節ですね。

このキャンプは今年で42回目を迎えます。大人のみさんも参加された記憶があるのでは?

主催者である川尻校区青少年健全育成協議会の森会長にお話をお聞きしました。

『青少協の野外育成活動には、今の生活様式では一見不必要に思えるものもあるかもしれませんが。しかしそれは子供にとって何かを判断する際に必要な経験となり、有用な知識の基礎にもなり得ます。無駄の排除や効率の追求よりも、子供たちの経験値を高めることを大切に活動したいと考えています。』

今年は7/29～7/30に4年生、昨年行けなかった5年生も8/11～8/12の日程で開催。子どもたちは大自然に囲まれた菊池少年自然の家で、様々な活動を経験します。

とってもおもしろそうな活動が計画されているみたいですよ。たのしみに待っててね♪

川尻校区青少年健全育成協議会(青少協)とは

地域住民の協力を得て、地域ぐるみで青少年の健全な育成を図ることを目的として活動するボランティア団体です。川尻校区自治会費・熊本市および川尻校区社会福祉協議会の助成金を活動資金とし、毎年青少協キャンプの主催、中学生の活動への助成、小学生のものづくり体験への助成などを行っています。



写真はイメージです



写真はイメージです

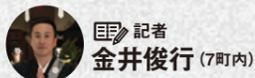


写真はイメージです

川尻校区青少年健全育成協議会 森会長



8月26日(土)開催 「夏だ! 夜市だ! 川尻わっしょい」



記者 金井 俊行 (7町内)

川尻の夏の風物詩と言えば、精霊流しと、夏だ! 夜市だ! 川尻わっしょいですね。今年も8月26日土曜日に開催予定です。

今回で14回目の川尻わっしょい。そこで実行委員長に抜きされた、川尻青年協議会の村田多聞さんにインタビューをしました。

今回は『昭和の川尻夏祭り』をテーマに、実行委員長が子どもの頃に体験した夏祭りと、今まで協議会が作り上げてきたものを融合し、ノストラジックな夏祭りを作り上げていきたいとのこと。

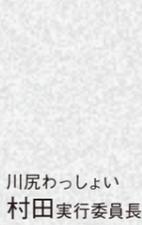
縁日は今まで以上に力を入れ、ステージイベントでは来場者が参加できるようにしたり、また川尻音頭を皆んなで踊ったりなど、会場全体が一体になれるよう企画を考えているとのこと。また現在川尻ではコスプレで町おこしをしています。そこでわっしょい会場でもコスプレを楽しめる内容も考えていきたいとのことでした。

わっしょい引きは川尻ならではの景品を準備して、皆さまに喜んでもらえたら幸いです!とのこと。

初めて実行委員長を務めるにあたり、不安だらけだそうです『家族みんなで楽しめる夏祭りにしたいと思っていますので、ぜひ遊びに来てください!』と力強く語っておられました。



写真はイメージです



川尻わっしょい 村田実行委員長



写真はイメージです

加勢川を好きになろう



記者 益本 武士 (7町内)

6月10日、「歴史・文化のある加勢川下流域の水辺を活かしたまちづくり」についての座談会が、公会堂にて開催されました。

参加者は川尻・富台中緑校区の自治協議会長と小学校PTA会長をはじめ、国交省緑川下流出張所や各まちづくりセンターおよび各種団体から40名を超えました。

この座談会は自治協議会から選出された準備委員会のメンバーによって企画されたもので、私もその一員として参加しました。

川尻商店街連合会の福山会長より「まずは参加者が親しくなることが大切です」との挨拶からスタート。次に私から、今回の目的である「加勢川を知る・興味関心を持つ・そして好きになって欲しい」と伝えさせていただきました。

まずは加勢川の現状を知ってもらおうと、国交省の井上所長から治水対策、そして川を活かした他地域の取組みの紹介がありました。

はじめての座談会であり、聞くだけでは理解しにくいので、実際に見てもらったほうがいいのではと、参加者全員に加勢川を30人乗りの船で視察してもらいました。最初は緊張していた参加者から「川と景観で癒される」や「小さいころ泳いでいた～」などたくさんの方が聞かれ、加勢川の癒しや懐かしさで、目尻が下がっていました。

次回は9月に座談会を予定していて、もっと多くの人に参加してもらえるように企画していきます。いつになるかわかりませんが、老若男女が自然と集まって来るような、安全で楽しい加勢川の水辺が出来るといいですね。



新任団体長紹介

令和5年4月より新任された川尻校区に関わる主な団体長さんに意気込みをインタビューまたはコメントを頂戴してきました。



記者 古川 亮 (10町内)

歌と音楽が大好きで、川尻の各種イベントの音響を担ってくれている米澤会長はいつも謎かけをしてこれ、周りを笑顔にされています。また、インタビュー中にチャットGPTなど流行りの言葉も出てくるなど、様々なところにアンテナをはられています。これからは13町内を笑顔に包まれる町内にされていかれると思います。地域の皆様のご協力をよろしくお願致します。



13町内自治会 米澤 徹 会長

私 が小さいころには15町内にも子供会があり、あちこち出かけていましたが、少子化で空白の時期が続いていました。最近子供が増えてきたので子供会を復活させ、にぎやかで安心・安全な町内としていきたい。今年度は子供会を復活させ活動していくことに力を注ぎたいと考えていますので、地域の皆様のご協力をよろしくお願致します。



15町内自治会 嘉古田 勇一 会長

赴 任してまだ3カ月ですが、各種行事、避難訓練、防犯活動(特に青パトの人気にはビックリ!) などとても濃く、活動的で、地元愛と本気度がピンピンと伝わってきました。まちづくりセンターは、地域の皆様に寄り添いながら支援をしていき、お気づきの点やご要望など気軽に話せる場所にしていきたいと考えています。お気軽にお立ち寄りください。



南部まちづくりセンター 山本 哲也 所長

日 頃より愛育会活動にご理解・ご協力を賜り、また子供達を常日頃より暖かく見守っていただき誠にありがとうございます。自主・礼儀・奉仕を校訓とするこの伝統ある川尻小学校の会長として、一生懸命に活動して参ります。川尻小は令和6年度に150周年を迎えます。各種行事等にご参加いただきますよう、お願い申し上げます。



川尻小学校愛育会 古賀 喬 会長

P TAという組織は学校の先生の働き方改革のために存在しているのではなく、生徒の親の主張だけのためでもないと思っています。PTAは生徒を中心に学校の先生と生徒の親が手を取り合う必要があります。その懸け橋として頑張ってまいります。地域の皆様の支えが必要不可欠です。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします!!



城南中学校PTA 益本 武士 会長